

報第4号

くま川下り株式会社の経営状況について

くま川下り株式会社の経営の状況を説明する書類（第54期決算報告書）を別紙のとおり報告する。

平成28年6月6日提出

人吉市長 松岡 隼人

第54期 決算報告書

くま川下り株式会社

人吉市下新町333-1
代表取締役 井上 幸生

第 5 4 期

決 算 報 告 書

自 平成 2 7 年 3 月 1 日

至 平成 2 8 年 2 月 2 9 日

第54期 事業報告書

自 平成27年3月 1日
至 平成28年2月29日

事業概況

当社第54期の決算を行いましたので、事業の概況と経過をご報告申し上げます。

当期は平成26年度に作成した「5つの事業を柱とする事業再生計画」に沿って会社再生の実現に向けて営業をいたしました。その結果、当期の総事業収入は、207,604千円(対前年103.4%)にて前年を6,915千円上回る事が出来ましたが、国民宿舎くまがわ荘の大幅な落ち込みによる減収のため、くま川下り(株)全体としては経常損失5,286千円となりました。

遊覧船事業

当期は、目標31,800人と定め事業再生計画の一つであるコースの見直しにより、3月からは従来の清流コース・急流コースからミドルコースをメインとした新たな4コースにて船頭16名、稼働船舶8隻での運航をいたしました。従来の清流コースに比べ時間と距離が半分となり、また、発船場までの無料送迎バス利用により帰って来るまでの時間が約1時間のサービス向上により非常に好意的なご意見を多くいただきました。

しかし、4月から運航予定であった下流域の激流コース・ロング貸切コースに関しましては、発船場予定地の土砂堆積や航路改修が必要な個所の発生に加え、球磨川の水位が安定せず、当期はミドルコース・ショートコースだけの運航となりました。

遊覧船事業の実績としましては、以下の通りでございます。船賃収入としては、74,606千円(対前年106.3%)となり、昨年より4,452千円の増収となりました。その要因といたしましては、月別で見ますと5月の連休、お盆期間(8月13日から16日)、9月のシルバーウィーク、10月が天候に恵まれた事により、5月、8月、9月、10月の4ヶ月間にて前

期を大きく上回った事が上げられます。

さらには、3月に人吉温泉観光協会によります500円値引き券の発行や、7月からの人吉市プレミアム商品券・ひとよし温泉よか旅券の発行による利用客の増加も一因となりました。なお、当期から開始した川下り後の送迎無料化に伴い、従来からの車回送業務は実質上行われておりません。

コース	客数		増減 (率)	
	H27	H26		
ミドルコース	29,871	清流・急流 23,165	6,706	128.9%
ショートコース	923	1,667	-744	55.4%
梅花の渡し	397	424	-27	93.6%
計	31,191	25,256	5,935	123.5%

これからとしては、あくまでもお客様ニーズに対応していく必要性もありますので、ロング貸切コースや激流コースの受入れ、更にコースの充実と再検討、船頭後継者対策、新造船の製造、既存船の補修等の課題が山積みしておりますが、ひとつひとつ解決に向けて取り組んでまいります。

事業再生計画の進捗状況につきましては、渡発船場のプレハブ解体工事を実施いたしました。

また、設備投資といたしましては、老朽化によりマイクロバス(中古29名乗り)の買換えをいたしました。

平成26年11月10日にオープンしましたレストラン「くまがわマルシェ」につきましては、13,607人の利用があり(対前年293.4%)、売上18,884千円(税別)となりました。地元、特に女性の皆様から多く利用していただいております、くま川下りのお客様にも好評でくま川下り全般の利用向上に大きく貢献しております。

宿泊事業

国民宿舎くまがわ荘につきましては、営業目標を宿泊人数7,500人、

休憩宴会人数を25,200人と定め、くま川鉄道の田園シンフォニーとの宿泊プランの継続やくま川下りとのパック商品、立ち寄り温泉のPR等の利用促進を進めるために、人吉球磨や近隣市町村の町内会・老人クラブ、過去の利用客へのダイレクトメールの送付やくま川下りとの合同営業活動を行い、くま川下りのショートコースと食事＋温泉パックを販売しました。しかしながら、宿泊客数の減少には歯止めがきかず大きな課題となっています。

サービス業の三要素と言われます設備・料理・サービスにおいては、一番の課題となります。部屋を含めた設備の老朽化には多額の費用が必要であり、改修は厳しい状況にあります。料理につきましては、ランチ及び宴会等に新たなメニューを加えてお客様に好評をいただいています。サービス・対応は気配り・手配り・目配りの更なる心からのおもてなしに努めてまいりたいと存じます。三要素と共に、営業力・企画力が重要でそれを如何に発信していくかにかかっております。

実績としましては、宿泊人数 4,871人(対前年86.7%)、休憩宴会人数 23,735人(対前年104.5%)の利用となり、総売上65,013千円(対前年89.8%)と前年実績には届きませんでした。

施設改修につきましては、前期の2月から3月にかけての人吉市による耐震工事で使用できない期間を利用して、浴場の天井・壁の塗装と女湯、家族風呂の脱衣所の床張替をいたしました。

その他事業

売店物品販売につきましては、9,116千円(対前年108.1%)、くま川下り6,459千円(対前年115.3%)、くまがわ荘2,657千円(対前年93.9%)となりました。売上増とするためには何といたっても来店する人の数が基本でありますので、魅力ある商品を置くことと販売員の明るい対応でサービス向上に努め、お客様の増加につなげてまいります。

ラフティングにつきましては、目標を6,000人として営業をいたしました。その結果、4,354人(対前年92.5%)、収入で24,235千円(対前年93.8%)の利用実績となりました。減少の主な要因は、関東・関西を主体とした教育旅行で天候不順による取り消しが発生したことにあります。今後は一般個人・グループ等へのアプローチを強め、利用者の増加

に努めます。また、現在ラフティング協会加盟会社が20社ありますが、レジャースポーツとしてだけではなく、教育旅行体験での「水辺の安全学習」等を取り入れて他社との違いを打ち出してまいります。

請負事業につきましては、今年も昨年並みの受注を受けました。

結果的にその他事業部門で総収入として当期50,176千円(対前年95.7%)となりました。

貸借対照表

平成28年2月29日現在

〈ま川下り株式会社

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
I 【流動資産】	【 16,475,088 】	I 【流動負債】	【 36,205,727 】
現金	734,783	買掛金	1,573,425
当座預金	23,272	短期借入金	10,000,000
普通預金	8,741,573	未払金	16,511,434
クーポン	733,830	未払費用	573,323
売掛金	604	前受金	218,417
棚卸資産	2,990,969	預り金	2,302,641
前払費用	1,122,917	仮受金	199,187
未収入金	1,765,583	未払消費税	4,568,800
仮払金	361,557	未払法人税等	258,500
II 【固定資産】	【 134,610,358 】	II 【固定負債】	【 118,848,000 】
1 (有形固定資産)	(124,828,925)	長期借入金	118,848,000
建物	24,987,401	負債合計	155,053,727
建物付属設備	901,384	I 【株主資本】	【 -3,968,281 】
構築物	4,694,904	1 資本金	[24,000,000]
機械装置	80,652	2 利益剰余金	[-27,968,281]
車両運搬具	3,130,721	利益準備金	(4,240,000)
船舶	1,333,804	その他利益剰余金	(-32,208,281)
什器器具備品	4,951,381	繰越利益剰余金	-32,208,281
土地	84,748,678		
2 (無形固定資産)	(2,281,433)	純資産合計	-3,968,281
電話加入権	1,023,905		
借地権	1,257,528		
3 (投資その他の資産)	(7,500,000)	負債・純資産合計	151,085,446
温泉利用権	7,500,000		
資産合計	151,085,446		

損益計算書

自 平成27年3月 1日
至 平成28年2月29日

くま川下り株式会社

科 目	金 額	
(経常損益の部)		円
I【営業損益】		
1(純売上高)		
船 賃 収 入	74,606,179	
国 民 宿 舎 収 入	64,292,827	
売 店 売 上	9,116,706	
レ ス ト ラ ン 収 入	18,884,778	
そ の 他 収 入	36,550,980	
値 引 き	△ 1,114,399	202,337,071
2(売上原価)		
期 首 棚 卸 高	1,178,371	
売 店 仕 入	6,323,559	
当 期 製 造 原 価	109,045,144	
期 末 棚 卸 高	△ 953,657	115,593,417
売 上 総 利 益		86,743,654
3(販売費及び一般管理費)		94,786,309
営 業 損 失		8,042,655
II【営業外損益】		
1(営業外収益)		
受 取 利 息	1,969	
写 真 取 扱 手 数 料	1,552,314	
雑 収 入	3,713,431	5,267,714
2(営業外費用)		
支 払 利 息	2,408,303	
雑 損 失	103,202	2,511,505
経 常 利 益		△ 5,286,446
(特別損益の部)		
III【特別損失】		
固 定 資 産 除 却 損	939,945	939,945
当 期 利 益		△ 6,226,391

